バス四台で杵島へ乗込む

涙で交したあく手

旅行の帰りに杵島を激励

大谷主婦会（三川）では深み行く秋の一日、会員そろつて佐賀祐徳院、嬉野温泉へと行楽の慰安旅行を行つたが、帰路杵島炭鉱へバスを回送。血みどろの闘いをつづけている杵島組合員、主婦たちを激励しばしの交流を行つたが、思わぬ大谷の主婦たちの激励に現地の人たちはさらに闘いへの闘魂を燃やして誓い立つた。

この日十月六日、大谷主婦会では懸案の慰安旅行を貸切バス四台を連ねて祐徳院、嬉野温泉へ約三百名と組合員五十四名が出発した。目的地で親しく懇親を行い、楽しい雰囲気に包まれ帰路についたがいまなお無期限ストで苦闘している杵島炭鉱の大町町は帰りのコースからそう離れたところでないと気がつき、予定を変更して、バスは大町町へ乗り込んだ。現地の大町町へつき社宅前へバスは停車し、まずマイクから〃幸せの歌〃が高らかに流れだした。ときならぬ幸せの歌に社宅内では奇異の目でバスをみつめている人、三人五人とぞろぞろとバスの周囲に集つてくる人がある。〃杵島の皆さん闘争でご苦労さまです。お互いに勝利の日までシツカリスクラムを組んで頑張りましよう〃マイクから流れる激励の声に社宅内がドツとどよめいた感じだつた。一瞬さつと生気がみなぎつた。

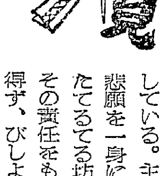
三池から激励よ！と鉢巻を締めた主婦たち、組合員、はては子供たちまで集つてくる。橋本分会長が「あなた達の闘いは炭労全体の闘いとして私たちは見守つています。私たちも一一三日の闘いを闘い抜いてきました、こちらが苦しいときは相手も苦しいときです。どうかこの苦難を乗りこえて下さい」と涙を流しての激励を行うと、じつと俯いている杵島の主婦たちの頬にも涙が伝わつている。そして割れるような万才をさけび、あちらこちらで感激の握手が交されているのも印象的であつた。

一方、大谷の主婦達の一部は社宅の中にも入り、六十数日のストでどんな夕飯の支度をしているかと肉親も及ばぬ心遣いでみて廻る。一主婦はこのときの様子を「山芋を沢山どの家も洗つておられた。あれなら栄養もあり自給自足で、闘いはこれからだと申されていたのも満更虚勢ではないですね」と頼もしそうに語つていた

夕陽は西に入りすでにあたりは暗くなつてきたが、大谷の主婦たちの心は車外とは反対に、一様に明るくなり「激励してきてよかつたね」と連発させながら、懐しい大谷むけてまつしぐらに心は走つた

橋本分会長談　帰りの車中で皆んなが「新聞や情宣で闘いの様子を聞いていたが、現地の激励ができたのは私たちの一念が天に通じたのヨ」と云われるのを聞いて、頼もしく力強く感じたことはこのときほどありませんでした。どんな大きな難につき当つても会員の方たちを信頼すべきだとつくづく感じてきました

てるてる坊主



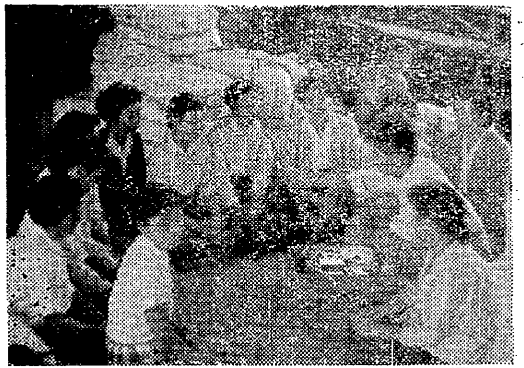
運動会の弁当をつくり終えて、もう一度窓の外を仰ぐと相変らずのどんよりした曇空しかもぽつりぽつりと降りはじめている。夕方からあやしげな空模様ではあつたが、ラジオの天気予報を信用してさやかではあるが、それでも普通の日の三倍もの経費を浪して買い込んだものである。だから当日運動会ができないとなれば、いづれ延期され、また三日分のおかず代が消えるわけ。はじめての子供を学校に上げ、運動会に参加させるのだか、やはり人並のことはしてやりたい親心で、雨があがるのを祈らずにはおられない。

主人と子供達の寝静まつた夜半に、私はてるてる坊主をつくり軒下にさげた。それも子供達のためにかつての童心にかえり、晴天を希う母心ではなく、つくりあげた弁当のもつたいなさと、再びかけねばならぬ経費の事を心配する貧乏世帯の主婦の切々たる願いのそれである。子供のころ無邪気に純心な祈りを捧げたてるてる坊主への夢に比して何と醜悪なリアリズムであることよ。

いく時間まどろんだであろう？　はつ、と眼をさますと雨の音、窓をあけると未だあけやらぬ空からひどく降り出している。主婦の悲願を一身にうけたてるてる坊主はその責任をも果し得ず、びしよびしよになつて、哀れな姿をとどめている。

それにつけても、この運動会の弁当の雨正を、二三年前生活革命運動の一つとして打出されたものの、未だずい分無駄な浪費をしているのは何とか皆で一考を要しなくてはならないものと、痛切に感じたことでした。（緑ガ丘かえで　高崎文子）

激励に応える杵島の人たち



スライドも活躍

整備しだい地域へ巡回

一億円の不正融資と一千万円の使途をめぐる福岡県の汚職事件で、土屋県知事は両腕とも頼む腹心の部下が検察庁に引張られながらも知事は少しも責任を感じないどころか、それから後も学生女子寮事件、日向神ダム工事などそれぞれ不正の事実があると噂されているなど全然誠意を見せないので、さきに結成をみた土屋知事汚職究明県民協議会（県民協）はリコール運動本部を設けて県下三百八十万の県民に訴え全国でも初めての知事リコールに立上ることを決定、十一月初旬をリコール宣言の日と予定して着々と準備をすすめてきた。

三鉱労組としても県民協とタイアツプして、組織として土屋退陣を実現させるという基本方針を決定して強力な情宣活動の一環として当面オートスライドの製作をはじめ、すでに完了した。

大体二十日ごろから盛上げることになつている。これは約五十コマで天然色によるスライド。上映時間は約三十分。本部の教宣部を中心に総務その他の全面的な協力を得て製作日数約二旬、このほど録音も完了し機械の整備がつきしだい各地域へ巡回することになつている。（写真下は主婦会員からの録音取材）

続々救援カンパ

一握りが廿五俵集まる

曙光がみえたかのように思われた杵島闘争も三日の団交で会社は事態解決へ一片の誠意さえみせず、返つて事態はスト突入前の状態へともどされ、現地ではいよいよ長期闘争への心構えを固めている。すでにスト突入以来七十余日を迎えるに至つている。

こんどの闘争は炭労の組織に挑む一つの現れとして出てきているのが大きな特色となつており、炭労傘下全山の第二波支援ストにまで発展している。

すでに米のカンパ運動は行われてきたが、闘争の長期化につれて九炭労では再度カンパを要請、三鉱労組でも米の一握りカンパを各地域へ呼びかけたところ、諫早カンパにつづく数回のカンパにもかかわらず、杵島の仲間を救おうと温い救援の手がさしのべられすでに本部へ三十俵が集められた。

同志の温いカンパを受ける杵島の仲間たちが、いやが上にもふるい立つことが目に浮かぶようである

（写真・組合本部へ集まつてくる救援の米俵）

活動支援の妨害

後藤緑ガ丘PTA会長粉砕

佐賀教組の先生逮捕事件は、政府の組合への政治的弾圧であることは今や誰もが疑いを入れる余地のないほど明白になつてきたとき、自民党的文教政治活動が熊本県のPTA連合会の中で活動をはじめた。熊本県教組の先生達が同僚を救おうと署名運動を始めたのを、県下のPTAとしてはこれに協力してはいけないと、全く露骨政治的中立を公言しているPTAとしては自民党の立場に立つた政治的決定を行つたものである。この決定が、荒尾PTA連合会の会長会に持ち込まれたが、これに対し、緑ガ丘PTA会長、後藤重雄氏は下部PTA会員の意向を問うことなく上部で勝手な決定をしたことは民主的でない。佐教組事件は政府の弾圧であると二点を強調し正面から反対し、この県PTAの政治活動を非難し遂にこれを市単位PTAに流さないということに決定させたのである。

これは一見かんたんのようであるが、荒尾PTAの一部にもある自民党的PTAの空気の中で敢然と主張し、これを阻止させたことはなみなみならぬ勇気がいることで後藤氏の行動は賞讃の的になつている。このようにともすれば自民党の政治活動の場になり勝ちなPTAを、正しい教育を支援する本来のPTA活動に導くために組合出身の役員は日夜奮闘しているのである。

後藤重雄氏談

緑ガ丘小PTA総会では、佐教組を支援すると決定を行つているし、しかもこのような重大な問題を県PTAが天下りに決定するなど、全く民主主義の規則のイロハを踏みにじつたやり方で独裁である。荒尾においてはあらゆる教育団体が一致協力し佐賀のように天下の物笑いを招くようなことは、われわれPTAとしては絶対望んでいない。

主婦会も出演

炭都祭に踊りを披露

大牟田の炭都祭は例年花の四月かメーデーと併行して行われていたが、今年は大牟田博覧会のスケジユールの中に含まれて、博覧会とタイアツプして華々しくくりひろげようと去る十月五、六、七日の三日間行われた。

主婦会でも本部役員や支部役員など十六名が、あでやかに化粧して参加、最近炭鉱節の振つけも手際よく、これも美々しく化粧した二ユースカー「はたかぜ」に同乗して市内目ぬき通りや、各社宅で見事な踊りを披露した。

主婦会ではこの日にそなえ、数日前からレコードに合せて練習に励み、めきめきと腕をあげ、各社宅で披露したときは、ヤンヤの拍手を浴びて面目をほどこした。

予想されていた炭都祭も雨にたたられ、日曜日はオジヤン。手ぐすね引いて待つていた月曜日も降つたり照つたりのヒステリー天気とあつてヤキモキさせたが、それでもクタクタになるまで最終日は踊りまくつて主婦会の名を大いに高めていつた。

「落盤」を上演

三川真珠会が初公演

三川支部演劇サークル「真珠会」では来る十月二十六、七、八日の三日間結成後初の公演を行うこととなり、いま最後の仕上げにピツチをあげている。

支部演劇サークルが結成されて早くも三カ月になるが、サークルの整備も終り、軌道にのつてきたのでいよいよ本格的な運動を開始することとなつたものである。

演しものは「落盤」これは月刊炭労連載のこんのひろし作〃断層〃を同サークルの山口正勝氏が脚色したもの。現在サークル員は十五名（女二名）、第一回公演に際して九月中をリハーサルと学習期間にあて、十月四日に第一回立稽古以来毎週土曜日を稽古日として懸命な練習がつづけられている。二十三、四、五日の三日間に最後の仕上げとして第一、二、三場の通し稽古が予定されており、いよいよサークルの成果がどう実つたかを各社宅の講堂で上演することとなつた。

また「落盤」と同時に土方与志作の「小作人の娘」も上演される予定である。

演劇サークル結成以来、演劇を通じて豊かな人間をつくり上げることがモツトーとなつており、労働の余暇を利用して、コツコツと練習を励んできたのであるが、演劇を愛好する人たちがどしどし同サークルに参加されることを現在呼びかけている。

運動会開く

楽しく三川主婦会

去る二日三川支部主婦会では恒例の運動会を万田グラウンドで午前九時から開始した。九月二十九日に予定していたのだが、あいにく恨めしい雨のため折角の準備もフイになり、二日に延期されたものだつた。前日と打つて変つてこの日はカラリと晴れた秋晴れ、青空の下に楽しいレクレーションを行つた。

レッド・パージ公判

十五日に第二審開く

昭和二十五年、十月二十一日に、当時の占領軍マツクアーサの指示により、三池炭鉱よりレツド・パージされた人たちが復職を闘いとるために組織している三池炭鉱レツド・パージ復職同盟（百十三名委員長濱田唯雄）では、第一審の大牟田地裁で昨年十一月末、反動的な鍛冶裁判長より「原告の請求棄却」の判決を受けてそれを不満として全員福岡高裁に提訴していたが、来る十月十五日第一回の公判が福岡高裁第四民事部で開かれることになり、去る八日、同盟の代表者が組合本部を訪れて、重ねて組合の支援方を切望した。

署名運動結実

バス増発・ポスト等

三川支部新港分会では懸案の新港経由のバス増加とポストの設立に地域分会は港務支部の新港地域分会とともに解決に乗り出したことは本紙でもさきに報道しましたが分会教宣部の署名運動、広沢政治局員と川畑政治局員の精力的な協力で一応の解決をみるにいたつたバスはいままで一時間に二本新港に乗入れていたが、こんど四本になつた。新しく増加したバスの経由は、市内循環で天領病院を通過し松屋前まで行く。このバスは博覧会がはじまつた九月二十一日より実施されている。

ポストは今期の予算に間に合わなかつたので来期にはすぐ着工すると当局との間に確約された。

また、諏訪橋より新港にいたる凸凹道路も本格的な補装をすることとなり、二年計画でコンクリートの立派な道路となることになつた署名運動をはじめとする、地域や政治局での熱意が実を結んだものである。（ていぼう　より）